

中華民国の誕生と大正初期の日本人

曾田三郎 著

2013年7月刊行

「中華民国」の誕生は同時代の日本人に大きな衝撃を与えた――

中国・日本双方の報道を通して大正初期の日本を見てゆくと、当時の日本・中国間における緊密な関係性がみえてくる。大正初期、日本の国会では中国のあり方・対中国政策が盛んに議論され、その如何が世論を動かした。臨時約法を始めとする中華民国誕生を取り巻く諸問題を通して、大正初期の日本人を捉え直す。

原著『立憲国家中国への始動』からさらに視野をひろげ、中華民国の誕生における日本と中国の関わりを紐解く。

A5判・320頁／定価6,825円(5%税込) ISBN978-4-7842-1695-6

内容目次

序 論

- (1) 辛亥革命100周年について
- (2) 前著への書評について
- (3) 中華民国の誕生と同時代日本の学者たち

第1章 中華民国臨時約法の制定と日本人法学者

- 第1節 寺尾亨・副島義一の中国到着
- 第2節 中華民国臨時政府組織大綱の制定と修正
- 第3節 統一中華民国政府の成立
- 第4節 臨時約法制定過程における日本人法制顧問

第2章 中華民国臨時約法公布後の中国政治と日本人

- 第1節 統一中華民国政府の成立と日本
- 第2節 臨時約法下での中国政治の遂行と挫折
- 第3節 第二革命と南京事件をめぐる日本での言論の対峙
- 第4節 臨時約法に対する批判の噴出

第3章 中華民国約法期の袁世凱政権と日本人

- 第1節 新約法の制定
- 第2節 新約法に対する日本人の論評
- 第3節 二一カ条交渉後の日本の国会での論戦
- 第4節 二一カ条交渉と民間の言動

第4章 中国の帝制復活をめぐる日本の政策と世論

- 第1節 帝制復活と改造大隈内閣の対中国政策
- 第2節 帝制復活問題と国民外交同盟会
- 第3節 日本のジャーナリズムと帝制復活問題
- 第4節 帝制復活問題と日本の学者たち

第5章 中国の参戦問題と日本の世論

- 第1節 袁世凱政権期の連合国加入問題
- 第2節 参戦問題をめぐる中国国内の対立と日本
- 第3節 中国の参戦問題と日本のジャーナリズム
- 第4節 中国の参戦問題と日本の学者たち

第6章 南北問題をめぐる日本の政策と中国の新聞報道

- 第1節 寺内内閣の成立と中国の新聞報道
- 第2節 寺内内閣の対中国政策をめぐる論戦と中国の新聞報道
- 第3節 内閣交代期の対中国政策と中国の新聞報道
- 第4節 中国における日本の新聞批評

第7章 中国の南北問題をめぐる日本のジャーナリズムと学者たち

- 第1節 南北問題と『大阪朝日』
- 第2節 南北問題をめぐる内藤・吉野・矢野論争
- 第3節 南北対立と吉野作造の「妥協論」
- 第4節 南北問題と臨時約法

結 論

そだ・さぶろう... 広島大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得退学。博士(文学)。広島大学名誉教授。

主要著作:『中国近代製糸業史の研究』(汲古書院、1994年)、『中国近代化過程の指導者たち』(編著、東方書店、1997年)、『近代中国と日本――提携と敵対の半世紀』(編著、御茶の水書房、2001年)、『中国抗日戦争史――中国復興への路』(共訳、桜井書店、2002年)、『立憲国家中国への始動――明治憲政と近代中国』(思文閣出版、2009年)など。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行: 思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	中華民国の誕生と大正初期の日本人	本体6,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1695-6
お名前			tel	
			e-mail	
ご住所	〒			
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		本書HPのQRコード	
			書店番線印	

立憲国家中国への始動 明治憲政と近代中国

曾田三郎著

立憲国家中国の形成という観点から叙述する中国近代史。内閣制を中心とする行政制度の改革や、省制・省政の改革を軸に、大隈重信などの政治指導者や、有賀長雄のような伊藤系の法学者などの影響を具体的に把握することで、明治憲政の影響を動態としてとらえる。

▶A5判・400頁／定価8,400円

ISBN978-4-7842-1464-8

古井喜実と中国 日中国交正常化への道

鹿雪瑩著

未公開資料をふくむ「古井喜実文書」ほか日中の資料を駆使しながら、古井を中心とした自民党内親中派による国交正常化への軌跡、交渉の裏側を総体的に検証。国交回復から40年、時流に流されず、みずからの信念を貫いた気骨の政治家の姿を追う。

▶A5判・356頁／定価3,990円

ISBN978-4-7842-1590-4

地域社会から見る帝国日本と植民地

松田利彦・陳延媛編

朝鮮・台湾・満洲

「支配される側」の視点と「帝国史」という視点——異なるレベルの問題に有機的関係を見いだすため、国内外の朝鮮史・台湾史研究者が多彩な問題関心を持ち寄り植民地期の地域社会像を浮かび上がらせる。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・852頁／定価14,490円

ISBN978-4-7842-1682-6

朝鮮独立運動と東アジア 1910-1925

小野容照著

1919年の三・一運動以前の在日朝鮮人留学生の組織活動、出版活動、独立運動の展開過程を追ひ、彼らが三・一運動後に社会主義勢力を形成していった過程を、その国際的要因と東アジア各国の運動との関連性に着目して論じる。

▶A5判・424頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1680-2

韓国「併合」前後の教育政策と日本

本間千景著

第二次日韓協約から第一次朝鮮教育令発布後の修身教科書への影響や教員の養成など、現地における学校教育をとりあつかう。日本の関与に対する朝鮮民衆の様々な対応と、日本側の植民地教育政策がどのような変容を迫られたのかを、多彩な史料に基づき明らかにする。

▶A5判・300頁／定価5,880円

ISBN978-4-7842-1510-2

青島の都市形成史：1897-1945

樂玉爾著

市場経済の形成と展開

青島がドイツ・日本との間に持った経済関係や、その関係が築かれた歴史的要因、青島の経済発展の過程や特徴、さらに青島が全中国へ与えた影響を解明。日中両国の広範な資料を用いることにより、詳細かつ中立的・客観的な立場での考察を試みる。

▶A5判・364頁／定価7,140円

ISBN978-4-7842-1453-2

植民地朝鮮の日常を問う

韓哲昊・原田敬一・金信在・太田修著

佛教大学と韓国・東国大学校との3年間にわたる学術交流の成果。近代都市・教育・観光・併合をキーワードに、「植民地時代」の「日常」とは何であったのかを検討した4編を収録。佛教大学国際学術研究叢書第3巻。

▶A5判・306頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1660-4

朝鮮近現代史を歩く 京都からソウルへ

太田修著

佛教大学鷹陵文化叢書20

朝鮮半島に繋がる人々における植民地支配と戦争の歴史がどのようなものであり、それが現代の人々によってどのように記憶されているのか。その歴史と縁(ゆかり)のある場所を訪れて、人々とふれあい、史料を読み、ゆっくり考えたなかから生まれた成果。

▶46判・270頁／定価1,995円

ISBN978-4-7842-1450-1

※オンドルと昼の国 近代日本の〈朝鮮観〉

三谷憲正著

佛教大学鷹陵文化叢書9

従来「閔妃」と言われてきた肖像写真は、実は別人である可能性がきわめて高い、という刺激的な論考をはじめ、雑誌メディアや小説にあらわれている近代日本の朝鮮観について、真摯な学問的良心をもって問い直す。明治以来の逆説に満ちた日朝関係の糸をときほぐす試み。

▶46判・232頁／定価1,890円

ISBN4-7842-1161-6

近世東アジア海域の文化交渉

松浦章著

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波濤を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後に登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。

▶A5判・472頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1538-6

※日中戦争から世界戦争へ

永井和著

華北に利権を求める日本。イギリス・アメリカ・ソ連を相手にしてどのような対応をしたのか。日本が世界戦争への道を歩んでゆく姿を明らかにする一書。【内容】東アジア20世紀史の中の日本／日本陸軍の華北占領地統治計画について／日中戦争と日英対立／1939年の排英運動／日中戦争と帝国議会／日中戦争と陸軍慰安所の創設

▶A5判・516頁／定価7,980円

ISBN978-4-7842-1334-4

近代日本の軍部と政治

永井和著

日本近代政治史の気鋭が「戦前の内閣」をとりあげ「軍人の内閣」というフィルターを通して内閣史に新たな光をあてる。【内容】軍人と内閣 視角と定義／軍人首相内閣論／軍人閣僚と戦前内閣／現役将校の官界進出／政軍関係理論に関する一考察 内閣官制と帷幄上奏 初期内閣と帷幄上奏勅令／内閣官制の制定と帷幄上奏

▶A5判・450頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0770-8

憲政常道と政党政治

小山俊樹著

近代日本二大政党制の構想と挫折

戦前日本において、二大政党制の導入に込められた理念とは何か。二大政党制をめざす政治家やメディアの戦略とは。そして政党政治の崩壊と二大政党制の関係は、どのようなものであったか。これらの視角から、「憲政の常道」と日本の政党政治をとらえなおす

▶A5判・384頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1662-8

日中戦争についての歴史的考察

明石岩雄著

日中戦争の全面化は、太平洋戦争への決定的転換点であった。またその結果は、日本の対中国政策の破綻でもあったとともに、中国市場の全面的開放と開発という、国際資本の試みの挫折といえる。本書は、日中戦争の原因について歴史学から考察する。

▶A5判・352頁／定価5,775円

ISBN978-4-7842-1347-4

歴史とアイデンティティ

山口定・R.ルプレヒト編

日本とドイツにとっての1945年

第1章 転換の年1945年 占領と官僚制(天川晃)連続と非連続(J. ユツカ) 第2章 第二次世界大戦下の日本とドイツ 第三帝国における青少年教育(N. フライ) 第3章 日本とドイツにおける全体主義の精神的・イデオロギー的諸前提 天皇崇拜(山折哲雄) 第4章 新たな転換点に立つ日本とドイツ 日本外交とドイツ外交(高橋達) など

▶A5判・500頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0795-3

貴族院と立憲政治

内藤一成著

明治から大正前期にかけての貴族院を主導し「官僚系」「山県系」などといわれた院内会派、幸倶楽部、及び子爵議員を中心とした最大会派、研究会の動向を中心に分析し、政党研究にくらべ著しく立ち遅れている貴族院に研究のひかりをあてた一書。

▶A5判・438頁／定価7,980円

ISBN4-7842-1278-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。